



図43 東島城跡遠景



図42 城跡の位置  
5万分1地形図「新津」

東島城跡 ひがししま 秋葉区東島

東島城跡は、新津丘陵の北部にある山城である。範囲は東西約四五〇メートル、南北約三〇〇メートルで、標高約三〇メートルから一〇七メートルにかけて空堀や平坦面が残されている。北側はゴルフ場建設の際に破壊され残っていない。東島城跡の近くには「城ヶ平」「城見山」「城ノ腰」といった小字名があった。これはこの辺りに戦国時代の有事の際に籠城した山城があったこと由来したものであろう。また、東島城跡のある山は、通称「要害山」「城山」とも呼ばれている。

東島城跡の発掘調査は、平成五（一九九三）年に新津市教育委員会が二度行った。しかし、十一世紀から十三世紀（平安時代～鎌倉時代）の木炭窯や製鉄に関連するものなどが見つかつたが、山城に関係する郭の造成痕跡や戦国時代の遺物はなかつた。

東島城跡の北西一・八キロメートルの平場に程島館跡（程島）、さらに北西一キロメートルには新津城跡（山谷町二丁目）がほぼ直線状に並んでいる。これらの城館跡は、いずれも中世に新津地



図44 山城遺構 伊藤正一氏作図

域に勢力を有した新津氏に関係したものとされており、新津城跡は平場の居館、程島館跡は背後の東島城跡の控えの館という性格があったと考えられている。立地からすると東島城跡は、戦乱時の要害だけではなく、東島から五泉・安田方面へと通じる山道の監視の役割も果たしていたと考えられる。

東島城跡へは新津方面から、県道新津―小須戸線の東島交差点から五泉方面へ約七〇〇メートル進むと左折して秋葉公園へと続く道があり、この角を左折してすぐの右手に登り口の標柱がある。この登り口から登ると、やや急な斜面が続き、やがて二の丸跡とされる平坦面が広がる。ここからは緩やかな斜面になり、やがて山頂に達する。山頂には本丸跡と考えられる一〇〇〇平方メートル弱の平坦面があり、この西南側には土塁が築かれている。南東へ伸びる尾根には空堀が二条連続し、この先にはさらに一条の空堀が残っているが、ゴルフ場建設以前はこれに続いてさらに二条の空堀が見られたという。南東斜面には無数の階段状に削平された平坦面が残る。

東島城跡は、昭和六十（一九八五）年に新津市の史跡に指定され、新潟市の史跡に継承されている。